

# 第5学年 小学校国語科学習指導案

令和4年6月20日(月) 3校時(第7時)  
6月24日(金) 3校時(第9時)  
那覇市立真和志小学校 5年 3組  
授業者: 上里 芳乃

## 1 単元名 「文章の要旨をとらえ、自分の考えを伝えよう」

### 2 単元の目標

- (1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 [知識及び技能] (2)ア
- (2) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C 読むこと」(1)ア
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C 読むこと」(1)オ
- (4) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C 読むこと」(1)カ
- (5) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考え伝えようとする。 [学びに向かう力, 人間性等]

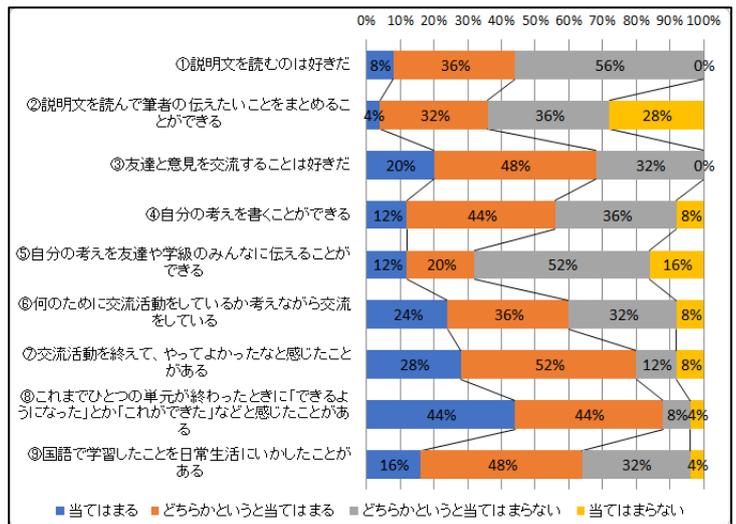
### 3 本単元における言語活動

文章の要旨をとらえて自分の考えをまとめ、交流活動を通して自分の考えを伝える。(関連: 言語活動例ウ)

### 4 単元について

#### (1) 児童観

児童の実態調査のための事前調査(図1)によると、説明文を読むことが好きではない児童が約半数以上いた。「説明文の学習でできるようになりたいこと」に対し、「筆者の考えを読み取ること」や「何を思ったかみんなに伝えること」「文を書けるようになりたい」と回答した児童が多かった。また、「②説明文を読んで筆者の伝えたい事をまとめることができる」に対して、否定的な児童が64%であった。さらに、「③友達と意見を交流することが好き」と回答した児童が、68%おり、「友達の考えを知ることができる」や「自分の考えにないことがある」という理由が挙げられた。一方で、「自信が無い」や「何と言っているかわからない」などの理由から、「自分の考えを友達や学級の人みんなに伝えることができない」と回答した児童は68%だった。加えて「何のために交流しているか考えず言われたからやっている」など、目的意識を持たずに交流活動をしていた児童も数名みられた。



このことから、自分の考えを明確にして自分の考えを伝えるために目的意識を持って交流活動をすれば、自分の考えを広げられるのではないかと思われる。

#### (2) 教材観

構成の面では、本教材は「初め」「中」「終わり」のうち、筆者の考えが「初め」と「終わり」に述べられている典型的な双括型の文章となっている。表現の面では、筆者の考えに基づく独特な言葉が使われていることが特徴である。「言葉の意味のはんい」「言葉の意味を『点』として考える」「言葉の意味を『面』として考える」などがある。これらの言葉は文中で丁寧に説明されているので、その意味をしっかり押さえるとともに、言い換えられているそれぞれの言葉がどう結びついているかにも注目しながら読み進めたい。一般に、人文・社会科学

系の文章には、こうした特徴がよく見られる。たとえ分からない表現があっても、そこで立ち止まらずに読み進めていくと、その後に解説があることが多いので、こうした読み方に徐々に慣れさせるようにしたい。

第5学年からは、外国語科の学習が始まる。この文章をきっかけにしながら、日本語と外国語の相違点などに着目し、言葉そのものへの興味を育てていくきっかけとしたい。

### (3) 指導観

文章の要旨をとらえ、自分の考えを伝え広げるためには、自分の考えを支える根拠や材料を明確にし、目的を持って交流活動を行い、交流を通して、自分の考えがどのように変容したのかを振り返ることが大切になってくる。そこで、本単元では、「目的意識を持った交流活動」と「交流後の変容の振り返り」を常に意識させ、以下の工夫を通して指導していく。

#### ① 「自分の考え」を持つための思考ツールについて

文章構成から筆者の主張を捉えたり、原因と結果を読み取ったりするために構成マトリクスを用い、自分の考えをまとめる手段として情報分析チャートを取り入れていく。この2つの可視化された思考ツールから自分の考えの根拠となる材料を持ちまとめ、交流活動を行うことで伝え合う力を高め考えの広がりにつなげていく。

#### ② 「いつでも使える交流の技」について

単元の中で「交流の技①④⑥」を計画的に位置づけていくが、最終的には児童自らどの交流の技を使って伝え合う力を高め考えを広げたいか決定させ目的意識を持って交流活動を行うことができるようにしたい。また、交流を通してどのように考えが変容したか簡単に自己評価できるよう、記号を用いた評価を工夫し単元計画表に交流後の考えの変容を記号で記入したり、言葉を選んで記述したりできる「交流カード」を取り入れ、考えの変容を記録として残し振り返りにつなげ評価に活かしていく。

#### ③ OPPシートについて

自身の学びや変容を自覚するために「交流前と後で自分の考えで変わったこと」を書く欄を設け、交流後に記号で記録した「単元計画表」と「交流カード」を見ながら視点を与えて表現させ交流を通して考えに変容があったのかを探っていく。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 【(2)ア】	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【C(1)ア】 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。 【C(1)オ】 ③「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 【C(1)カ】	①粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、自分の考えを伝え広げようとしている。

## 6 単元の指導と評価の計画（全10時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
第一 次	1 ○「文章の要旨をとらえ、自分の考えを伝え広げる」という学習の見通しを持つ。 ○教材文を読み、感想を持つ。 2 ○学習課題を設定し学習計画を立て、OPPシートへ学習前の筆者の主張を書く。	・教師作のモデルから単元のゴールを確認させる。 ・感想の書く視点を与える。 ①その通りだ・共感…○ ②分からない・疑問…△ ③考えこと、思ったこと…□	【態度①】 学習課題から、筆者の主張をOPPシートに記入している。 (OPPシート)
第二 次	3 ○文章構成を捉える。 ○交流を通して自分の考えを広げる。 (①探しの技)	・どんなまとまりがいくつあるのか考えさせる。 ・段落にある筆者の主張が、「終わり」でも繰り返し述べられていることに気付かせ、双括型をおさえる。	【知・技①】 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。

	4	○序論と結論の比較から筆者の主張を読み取る。 ○交流を通して自分の考えを広げる。 ⑥相談の技 ○序論と結論を確かめる。	・文章構成を捉えるために「構成マトリクス」に整理させる。 ・「はじめ」と「おわり」に同じ言葉がくり返し使われていて強調していることに気付かせられるように指導する。	(確かめテスト) 【思・判・表①】 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 (ノートの記述)  【思・判・表②】 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。(情報分析チャート)
	5	○細部(本論)のまとまりを読み、原因と結果の関係を理解する。 ○原因と結果の関係を考える。	・「構成マトリクス」を活用して「問い」に対する「答え」と「説明の部分」を区別し、まとまりが捉えられるように指導する。	
	6	○要約する(要約シート) ○交流(④助言の技)を活用してお互いにアドバイスをし合いよりよいものに仕上げる	・「構成マトリクス」を参考にすることを助言する。	
	7 【検証】	○「言葉の意味が分かること」の要旨をまとめる(学習ノート) ○交流(④助言の技)を通してお互いに「要旨のまとめ方」ポイント①～④をもとにアドバイスをし合う。 ○書き直す。	・「要旨」の意味をおさえる。 ・「要旨のまとめ方」条件を全体で確かめる。 ①筆者の考えをまとめる ②使うキーワード3つ ③140～150字でまとめる ④文意が通るようにまとめる(常体) ・「構成マトリクス」「要約シート」「全文シート」を参考にすることを助言する。 ・支援を要する児童には「要約ヒントカード」を与える。	
	8	○文章を読んで理解したことに基ついで自分の考えをまとめる。 (情報分析チャート) ○交流(④助言の技)を通してお互いにアドバイスをし合い、自分の考えをよりよいものにする。	・「自分の考えをまとめる」条件を全体で確かめる。 ・「自分の考えのまとめ方」①～④を視点に読み合うことを助言する。 ①事例…引用文「」をつける ②根拠…自分の体験や考えから ③意見…筆者の主張から ④文意が通るようにまとめる(常体)	
第三次	9 【検証】	○文章を読んでまとめた考えを共有し、自分の考えを広げる(①探しの技) ○交流カードを記入し渡す。 ○自分の考えを見直す。	・交流の目的と方法を全体で確かめる。 ・互いの根拠の違いを明らかにしたり、よさを認め合ったりできるように、友達の実験や考えに対する「違いや良さを表現する(言葉)」を一つ選び、その言葉を使って「交流カード」に記述させる。	【思・判・表③】 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し自分の考えを広げている。(成果物)
	10	○OPPシートへ学習後の筆者の主張を記述する。 ○単元全体の振り返りをする。	・「筆者の主張」の記述から、学習前後の変容に気付かせ、学びを実感させるようにする。 ・OPPシートの記述より伝え合う力や自分の考えの変容を振り返らせる。	【態度①】 粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し自分の考えを伝えようとしている。(行動観察)

## 7 本時の学習(7/10時間)

### (1) 本時の目標

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ文章全体の構成を捉えて、「言葉の意味が分かること」の要旨をまとめることができる。

### (2) 本時の授業の工夫

- ①可視化された思考ツールから、自分の考えの根拠となる材料を持つことで、要旨をまとめることができるようにする。
- ②「交流の技④」を位置づけることで目的意識を持って交流活動を行い、伝え合う力を高めていくことができるようにする。
- ③学習の振り返りで「OPPシート」を用い、交流後に記号で記録した「単元計画表」を見ながら視点を与えて記述し交流を通して考えに変容があったのか明らかにする。

### (3) 本時のめあて

まとめた要旨を交流活動を通してよりよいものにする。

### (4) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価項目(方法)
導入 3分	1. 前時の振り返り		
	2. めあて	まとめた要旨をよりよいものにしよう。	

<p>展開 32分</p>	<p>3. 「言葉の意味が分かること」 の要旨をまとめる (学習ノート)</p> <p>4. 交流を通して考えを広げる (④助言の技)</p> <p>5. 直しをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「要旨」の意味をおさえる</li> <li>・「要旨のまとめ方」条件を確認する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>①筆者の考えをまとめる</li> <li>②使うキーワード3つ</li> <li>③140～150字でまとめる</li> <li>④文意が通るようにまとめる(常体)</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を参考にしながらまとめるよう助言する</li> <li>・支援を要する児童には「要約ヒントカード」を与える</li> <li>・交流のポイントを確認する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>①目的「よりよい要旨にするため」</li> <li>②方法「ノートを持ってアドバイスをもらいたい人の所へ行く」</li> <li>③「要旨のまとめ方」条件を意識する</li> </ul> </div>	<p>【思考・判断・表現①】 (学習ノート)</p> <p><b>B 概ね満足</b> 要旨を書くときの条件①～③を満たしている。</p> <p><b>Cの支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導の際に声掛けをする</li> <li>・前時の授業の中から参考になることを探すように促す。</li> </ul>
<p>終末 10分</p>	<p>6. まとめ</p> <p>7. 振り返り</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>要旨は筆者の主張からキーワードを使って短くまとめるとよい。また、<u>助言の技を使って付け加えたり削ったりしてよりよい文にする。</u></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OPPシート</li> </ul>	

## 8 板書計画

文章の要旨をとらえ、自分の考えを伝えよう。

言葉の意味がわかること  
今井むつみ

④助言の技：アドバイス  
よりよい考え

要旨

：筆者の考えをまとめる

めあて

「言葉の意味が分かること」の要旨をまとめよう。

まとめ

要旨は筆者の主張からキーワードを使って短くまとめるとよい。また、助言の技を使って付け加えたり削ったりしてよりよい文にする。

交流のポイント

要旨のまとめ方

①文章の話題と全体の構成を確認する

②筆者の考えをまとめる

③「はてな」「どうして」

④文章の意味が通るようにまとめる

⑤文章の意味が通るようにまとめる

④助言の技(アドバイスを)

直し(付け加える、削る、)

直した部分に線を引く

アドバイスをもたせて考えがどのように変容したのかを伝え合う

パワーポイント提示

ふり返り

OPPシート

④の技を使って、

○○さんのアドバイスのおかげで……

わたしのアドバイスで○○さんの……

## 9 本時の学習(9/10時間)

- 本時の目標  
文章の要旨を捉えて自分の考えをまとめ、交流活動を通して自分の考えを広げることができる。
- 本時の授業の工夫
  - 可視化された思考ツールから、自分の考えの根拠となる材料を持つことで、要旨を捉え、自分の考えをまとめることができるようにする。
  - 「交流の技①」を位置づけることで目的意識を持って交流活動を行い、伝え合う力を高めていくことができるようにする。
  - 「交流カード」用い友達の考えのよいところを選んで記述し自己評価を行い、交流を通して考えがどのように変容したのかを可視化して振り返りへとつなげていく。
  - 学習の振り返りで「OPPシート」を用い、「交流カード」を見ながら視点を与えて記述し交流を通して考えに変容があったのか明らかにする。
- 本時のめあて  
文章の要旨をとらえ交流活動を通してまとめた自分の考えを伝え自分の考えを広げる。

(4) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価項目 (方法)
導入 5分	1. 前時の振り返り 2. めあて	・前時でまとめた自分の考えを、交流を通してよりよいものにする (自分の考えをまとめた情報分析チャート)  まとめた自分の考えを友達に伝え、自分の考えを広げよう。	
展開 30分	3. 交流を通して考えを広げる (④助言の技) 4. 交流カードを記入し渡す 5. 自己評価をする 6. 自分の考えを見直す	・交流の目的と方法を全体で確かめる ・交流のポイント 「自分の考えのまとめ方」条件のもとにアドバイスをする ①事例・・・引用文を一つか二つ ②根拠・・・自分の体験や考えから ③意見・・・筆者の主張から ④文意が伝わるか ・互いの根拠の違いを明らかにしたり、よさを認め合ったりできるように、友達の考えに対する「違いや良さを表現する(言葉)」を一つ選び、その言葉を使って「交流カード」に記述させる	【思考・判断・表現③】 (成果物) <b>B 概ね満足</b> の姿 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 <b>C の支援</b> ・机間指導の際に声掛けをする ・交流のポイントを参考に、交流の仕方を促していく。
終末 10分	7. まとめ 8. 学習の振り返り	自分の考えを上手く伝えるためには、なぜそう考えたのか根拠が大事である。また、その目的に合った交流をすると自分の考えを広げることができ  ・OPPシート	

10 板書計画

①の技を使って・・・

OPPシート

振り返り

まとめ

自分の考えを上手く伝えるためには、なぜそう考えたのか根拠が大事である。また、その目的に合った交流をすることで考えを広げることができる。

めあて

文章の要旨をとらえ、自分の考えを伝え広げよう。

言葉の意味がわかること  
今井むつみ

交流のポイント

① 「交流カード」を記入して渡す。  
② 自己評価をする。  
③ 自分の考えを見直す。

パワーポイント提示

①探しの技・・・自分と同じ・違う考えか  
なぜそう考えるのか

まとめた自分の考えを友達に伝え、自分の考えを広げよう。

めあて